

どてらだよ

第 2 号
瑞宝山不動寺
平成18年11月
TEL 75-4862



7月22日 「もうすぐお盆ですと」題して法話がありました。お盆は盂蘭盆会（うらぼんえ）が正式名で、サンスクリット語のウラバーナが語源です。関東はで7月、関西は8月に行われます。

ご先祖の迎え棚は、経木や位牌と共に、野菜に割り箸や新の竹などを刺して作られた動物を供えた精霊棚を作ります。上の絵は昔から高野山のふもとでお盆にまつられた精霊棚です。麻生津地区に残るいわゆる初盆の「そんじょまつり」は「尊霊（そんりょう）まつり」が訛ったものと考えられます。

いずれにしても、ご先祖はこの精霊棚の動物を依り代（よりしろ）として、その背に乗せてもらって帰ってくるのでしょう。

なお、施餓鬼会は餓鬼道に落ちた有無縁の亡者のため供養する法会ですが、本来の意味は、他人に慈悲の心を持つことをおしえる人間行なのです。

9月23日 今年に入り、1月は初不動の大祭があり、4月にはおたすけ地蔵尊のお開眼がありました。いま土寺小屋では主として般若心経の解説とお写経を楽しんでいます。

この日はお彼岸の由来話しと、お写経を行いました。この日、不動寺庫裡の床の間には彼岸花と、御弥津（おやつ）の、手づくりの栗おはぎが供えられました。（「御弥津」は当て字です）

栗は皮をむき、砂糖で甘く煮たあと、小豆餡にのせてみました。秋に作れば「おはぎ」、春に作れば「牡丹餅（ぼたもち）」だそうです。



10月28日 般若心経の題は「仏説摩訶般若波羅密多心経」です。この「仏」いう字は「佛」とも書きますね。「沸騰」の「沸」という字も同じく「水であって水にあらず」という意味を持っているように、「弗」は「あらず」ということで、「人であって人にあらず」という意味を持っています。お釈迦さまは、それほど偉大な超人だったのです。その証拠に、



私たちがいつもお唱えする諸真言十三仏真言の中で、実在した人間ではお釈迦さまだけが創造仏の仲間入りをしています。

「摩訶」の語源は「マハー」で「大」「多」「勝」の意味を含んでいます。マハー・トマ・ガンジーさんは「大なる・魂の・ガンジー」と言う意味なんです。また、「マハラジャ」という言葉をご存じですか。東京にあったディスコダンスホールの名前ですが、本来は「マハー・ラジャー」で「偉大なる・王様」の意味です。ちなみに、とてつもなく大きな嘘は「真っ赤な嘘」ではなく、「摩訶な嘘」なのです。この続きは、お楽しみに！

この日の御弥津（おやつ）は「紅葉生麩のずんだあんがけ」でした。要するに、くるみあんです、アン。



11月25日 般若心経の主人公は観自在菩薩なんですね、観音様です。なぜ般若心経に観音様が登場するのかと言うと、どんな姿にも変身でき、あらゆるものを自由自在に観ることができる、とされているからなのです。言い換えれば「空」を説いている般若心経の中で、存在する一切のものを「空」と観ることができる仏さま、観音様が一番適任であり、言い換えれば修行者である私たち自身なのです。「菩薩による菩薩のための菩薩の経典」と言えます。

御弥津は住職奥方手作りの智意津恵喜（チーズケーキ）でした。

